令和８年６月５日

日本大学医学部付属板橋病院建替の設計・監理業務に係るプロポーザル

契約概要及び審査概要

《契約概要》

契約件名　　日本大学医学部付属板橋病院建替の設計・監理業務

受注者名　　石本・藤記（フジキ）設計共同体（代表者：株式会社石本建築事務所）

契約金額　　１，８００，０００，０００円（消費税を含む）

《審査概要》

１　審査結果及び受注候補者の選定

本学が，令和６年２月１９日に設置した「日本大学医学部付属板橋病院建替等の設計・監理者選定に係る専門委員会（以下「本委員会」という）」における審査員が評価要領に基づき審査を行い，令和８年５月１４日開催の本委員会において，最も評価点が高い優れた技術提案書等が選定され，見積書の金額が大学の予定価額以下である石本・藤記設計共同体（代表者：(株)石本建築事務所）を受注候補者として選定した。

評価点一覧

業者名・企業体名	石本・藤記設計共同体	(株)内藤建築事務所
理解度，取組意欲	4.2	3.6
取組体制・実績，事業工程（設計工程及び工事工程）	16.0	14.0
課 題 １	20.0	16.0
課 題 ２	19.0	13.0
課 題 ３	20.0	14.0
合　　計	79.2	60.6

※評価点は審査員の平均（100 点満点）

２　受注者の決定

本委員会で選定した受注候補者について，令和８年６月５日開催の本学理事会にて受注者として決定した。

３　委員構成

※委員長　　廣　田　直　行　（日本大学生産工学部特任教授・前日本建築学会副会長）
※委　員　　竹　内　　徹　（日本大学理工学部客員教授・前日本建築学会長）
※委　員　　上　野　　武　（千葉大学名誉教授）
※委　員　　岡　本　和　彦　（東洋大学教授）
※委　員　　吉　野　正　章　（千葉県教育庁）
委　員　　淺　井　万　富　（日本大学業務執行理事）
委　員　　上　條　由　美　（日本大学理事・昭和医科大学学長）
委　員　　吉　澤　長　武　（日本大学管財部長）
※日本建築学会推薦者，設計・監理者選定に係る審査員

4　設計・監理者選定に関する経緯

①令和８年１月　９日　プロポーザル実施の公告
②令和８年２月１６日　２者より質問書を受理
③令和８年３月　６日　２者に質問回答書を配布
④令和８年３月１９日　２者より参加表明書を受理
⑤令和８年４月１３日　２者より技術提案書等を受理
⑥令和８年４月２３日　１次審査通過者を２者選定
⑦令和８年５月１４日　２者にて２次審査を実施（プレゼンテーション等）
同　　日　受注候補者の選定

5　審査の詳細

①参加要件確認及び１次審査

事務局が，参加表明書等により参加要件を満たしているか確認を行い，技術提案書等と共に本委員会に報告した。

審査員が，事務局からの報告内容をもとに審査し，本委員会が１次審査通過者として選定した。

②２次審査

審査員が，１次審査通過者の技術提案書等，プレゼンテーション及び質疑応答の内容について，評価要領に基づき評価・採点を行った。採点結果に基づき，最も評価点が高い優れた技術提案書等と次順位を，本委員会にて選定した。

③技術提案書課題

「コンパクト・スマート・ホスピタル」を実現するために，以下の課題を解決するアイディアについて提案する。

⑴課題１：（配置計画）誰もが分かりやすい動線と配置計画

周辺環境，敷地形状，当該敷地の高低差，既存施設や学部新校舎との位置関係に配慮し，患者・医療スタッフ・学生が将来に渡って使いやすく，バリアフリーな災害拠点病院としての動線・配置計画の提案を求めます。さらに，バスロータリー（将来の拡充を含む）及び現病院解体跡地の活用方法については，提示する基本計画段階の検討資料（参考資料）を参照の上，積極的な提案を求めます。

⑵課題２：（空間構成）持続可能な医療体制を構築するコンパクトな空間構成

既存建物や学部新校舎との関係性を重視した上で，適切な部門構成による新築建物のコンパクト化と持続可能な医療体制を構築する空間構成を求めます。

⑶課題３：（環境対策とコストコントロール）ライフサイクルコストを最適化する手法

新築建物のライフサイクルコストの縮減に向けて，発注者，設計者及び施工者が連携し，本事業に適応可能な具体的な提案を求めます。また，病院として衛生的環境を保つための方法はもとより，積極的な省エネや創エネ対策もランニングコスト削減に向けて重要です。イニシャルコストとのバランスを考慮の上，実現性がある提案を求めます。

以　上

講　評

それぞれの提案内容について，大学が提示した課題に対する的確性（与条件との整合性等）・実現性（提案内容が理論的に裏付けられた説得力のある提案か，役割や責任が明確な体制か）・独創性（工学的知見に基づく独自性，新規性，アピール力，発信力）の観点から，審査員の間で議論が交わされた。

審査員の評価点は多少のばらつきがあったものの，５人中４人の審査員が参加者番号No.１に対して総合的に最も高い採点を行った。参加者番号No.１及びNo.２の技術提案書等は共に密度が濃いものであるが，参加者番号No.１の提案のほうが，より多角的な検討能力に長け，各課題に対して丁寧に提案していることなどが評価され，議論の末，当初の採点結果通りとし，評価点が高い順に技術提案書等を選定した。

設計・監理業務においては，日本大学医学部付属板橋病院の歴史の継承についての提案，構造計画と意匠・設備計画との整合性の確保（施工上の納まり検討を含む）及びコストコントロールの徹底について，期待するものである。

各案に対する講評は以下の通りである。

【最も評価点が高い技術提案書等】

参加者番号No.１　石本・藤記（フジキ）設計共同体（代表者：株式会社石本建築事務所）

明快な動線や空間構成について評価され，キャンパスストリートに面した１階のホスピタルモールは魅力的な空間となる旨の意見があった。特に，病院の経営上重要な救急及び集中治療部門の配置計画について明快である旨の意見があった。また，病棟計画では個室率を増加させるとともに，１床あたりの病棟面積を削減する積極的な提案が行われたことが評価された。

将来計画では，建替ステップ(ANNEXの提案)によりフラットキャンパスの実現を提案していることは評価されたが，　余剰容積の消化としている姿勢は疑問である旨の意見があった。

当該敷地の複雑な高低差の処理やコストコントロールの提案については，不明瞭な部分があるものの，搬出土量の削減や免震層の利用など多彩なコストダウンに係る提案や，各種補助金の獲得予定金額も提示するなど，多角的な検討に基づく挑戦的な提案により，大学側の選択肢が多いことも評価され，最も優れた技術提案書等として選定した。

【次順位の技術提案書等】

参加者番号No.２　株式会社内藤建築事務所

技術提案書等に記載された検討の密度は濃いものの，提案された内容は日本大学板橋病院に対してではなく一般的な病院に留まる旨の意見があった。特にエレベーター計画が難しい１フロア４看護単位の病棟については，患者や見舞い客の移動が複雑で分かりにくく，同じ４看護単位を提案しつつエレベーター計画が明快なNo.１との違いが出た。また，動線計画，空間構成及びコストコントロールに対する魅力的な提案が少なく，質疑回答についても不明瞭な部分があり，No.１との採点に差がついた旨の意見があった。

医学部付属板橋病院建替等の設計・監理者選定に対する専門委員会　委員長